



自動車総連、第29期前半期の活動をスタート!!

第50回大会を開催

自動車総連は9月9日～10日の両日、メルパルク東京(東京)をメイン会場としての大会を開催した。

●高倉会長挨拶(要旨)

●国政報告

●報告承認事項

◆一般経過報告

◆第28期後半期決算報告

●特別報告

◆あり方委員会最終答申

◆ジェンダー共同・多様性推進計画

●議事

◆第1号議案:自動車総連規程改定の件

◆第2号議案:自動車総連規約改定の件

◆第3号議案:役員選挙の件

◆第4号議案:顧問・法律顧問委嘱の件

◆第5号議案:第29期運動方針(案)

◆第6号議案:第29期前半期予算(案)

◆第7号議案:退任役員表彰の件

◆特別決議:第49回衆議院議員総選挙および
第26回参議院議員選挙必勝決議(案)



挨拶する高倉会長

第50回大会は新型コロナウイルスへの感染ならびに拡大防止における自動車総連としての社会的責任、そして、参加者の安全最優先の観点にて、会場と代議員をWebシステムで繋ぐ「分散開催」として実施した。

第1日目は武藤中央執行委員(スズキ労連)の司会で開幕し、高倉会長の挨拶に続いて議事として「自動車総連規程改定の件」が採択された。報告承認事項の審議では「一般経過報告」「第28期後半期決算報告」が報告・承認され、特別報告「あり方委員会最終答申」、「ジェンダー共同・多様性推進計画」の後、顧問議員の国政報告をもって第1日目を終了した。

第2日目は議事として「自動車総連規約改定の件」、「役員選挙の件」について投票を行った後、「顧問・法律顧問委嘱の件」、「第29期運動方針(案)」、「第29期前半期予算(案)」および特別決議「第49回衆議院議員総選挙および第26回参議院議員選挙必勝決議(案)」がそれぞれ採択された。最後に「退任役員表彰の件」が採択され、第50回大会は終了した。



議長・宮田代議員
(ヤマハ労連)



議長・細川代議員
(全トヨタ労連)



第29期新役員



自動車総連一丸となり愛と信頼、そして勇気をもって 立ち向かえば道は拓ける

取り巻く環境

自動車産業を取り巻く環境の歴史的な変革期にコロナ禍が重なった今日、自動車産業が日本で競争力を磨き続け、雇用を維持・創出し、モノづくりを続けていくためにはあらゆる変革に果敢に挑戦していかなければなりません。さらにはカーボンニュートラル達成に向けた取り組みも始まっており、公正な移行・ソフトランディングに向けた、オールジャパンでの取り組みが不可欠です。

また、グローバルレベルでもコロナ以前から問題視されてきた不安定雇用の増大や格差拡大による社会の二極化が進み、社会的な絆が損なわれる状況も懸念される中、国際的に自由で健全な市場経済体制を築き上げていくことが重要であり、世界中の金属産業に携わる労働者が集うインダストリアル・グローバルユニオンにおける連携・連帯のために自動車総連としても役割と責任をしっかりと果たしていかなければなりません。

コロナ禍における 労働運動のあり方

これから新型コロナウイルスと向き合っていく中で、我々労働組合の活動のあり方や社会のあり方も大きく変わっていくことが想定されます。ワクチン接種が進んでいますが引き続き感染予防は必要であり、人と「会わない・近づかない・向き合わない・話さない」ことによる被害も懸念されます。他の人と触れ合うことで、喜びや悲しみ、感動や共感を分かち合えることは、人とのつながりや交わりによって生み出されるものであり、寛容性を失った組織や社会は、持続可能性を失ってしまいます。

オンラインでの活動では、より多くの人と触れ合う機会ができ、活動の幅が広がるなどのメリットもあり

ますので、対面での活動といかに両立させ相乗効果を上げていくのか、また、多様化する個人個人の価値観やニーズがある中で、組合員の総意としての意見をいかに纏めていくのかなど、労働組合としての団結力・組織力を高めていく上での工夫が必要です。従って、これまでのやり方に固執することなく、危機をチャンスと捉え、一人一人の行動を見つめ直し創り出していく、新しい価値観のもとでの構想力が問われています。

「はまぐち誠」2期目の 戦いに向けて

コロナ禍が長期化する中で、政治の果たすべき役割と責任は重大です。来年7月の参院選に向けて、本大会終了後には総決起集会を開催し、「はまぐち誠」2期目の戦いが、いよいよ本格的にスタートします。

「はまぐち誠」は、国民民主党の比例代表候補として戦います。我々としては、当選順位にかかわる個人名での投票に徹底的にこだわり活動を展開しますが、各政党の獲得議席は個人名と政党名の合計で決まり、全体では政党名の方が圧倒的に多いことから、国民民主党の認知度向上にも努力していかなければなりません。

大変厳しい取り組みとなりますが、我々の代表を国政に送り出すことが、我々の雇用と生活、そして明るい未来に直結するということを、今一度胸に刻み、自動車総連一体となって、今後の活動を力強く進めていきたいと思っておりますので、皆さんの絶大なるご協力をお願いします。

退任にあたって

役員選挙が行われますが、私自身、会長職を退任させて頂きたいと思っています。リーダーの責任には、後継者の育成に努め、出处進退を誤らな

いことが重要であり、最良のタイミングで後継に引き継ぐことが重要だと思っています。このことを受けて、自動車総連・役選委員会において、慎重に論議を重ねた結果、満場一致をもって、次期会長には、現事務局長の金子さんを推薦頂けることになりました。併せて、副会長・事務局長・副事務局長の三役体制につきましても、満場一致での推薦に至りました。今後も労使が自主性・主体性をもって、徹底した本音の論議を行うことを基本に、働く者の意欲・活力の向上や安心感につながる取り組みを、強力に推進して頂きたいと思っております。

最後に

自動車総連のこれまでの歴史は平坦な道ばかりではなく、幾多の困難や試練に見舞われてきました。しかしその都度、多くの先輩方の英知と努力の積み重ねによって築かれてきた価値ある歴史を基盤として、時代認識を共有する労連・単組・組合員の良識と意欲によって、様々な難局を乗り越え、将来への希望と決意をもって理想を掲げ、新たな時代への挑戦を続けてきたと思います。

今、自動車産業が大変革期を迎え、労働運動面でも、組織率の低下、様々な格差の拡大など、多様で重大な多くの課題に直面しています。労働組合・労働運動そのものの存在意義が問われていることを、自動車総連としても真摯に受け止めた上で、これまでの歴史的経過を踏まえ、その理念や考え方への確信をもって、毅然と、そして誠実に活動を進めていかなければならないと思います。今後、直面する幾多の困難や試練があろうとも、自動車総連一丸となって、愛と信頼、そして勇気をもって立ち向かえば、必ずや道は拓けるものと信じています。

メッセージ

海外友誼組織連帯を代表してインダストリアル アトレ・ホイエ書記次長、UNI クリスティ・ホフマン書記長よりビデオメッセージをいただいた。



インダストリアル
アトレ・ホイエ書記次長



UNI
クリスティ・ホフマン書記長

報告承認事項

一般経過報告

「第28期後半期の活動全般について」、「2021年総合生活改善の取り組み総括」を報告し、承認された。



金子事務局長



森口副事務局長

第28期後半期決算報告

「第28期後半期決算報告」について報告し、全会一致で承認された。



柏谷企画総務局局長



渡部会計監査

特別報告

あり方委員会最終答申

自動車総連の「目指すべき方向性」として示された「日本の優位性を維持・向上させていく」、「自動車産業の優位性を維持・向上させていく」、「生活者の生きがい、働く者のやりがいを高めていく」、「地域社会との結びつきを高めていく」、「労働組合の役割を発揮していく」の5つの柱を実現するため、下記の8つの提言をあり方委員会最終答申にて提案することを報告し、承認された。



金子事務局長



8つの提言

- 提言1** 自動車総連の政策や、政策を実現するための取り組み方を見直すべき
- 提言2** 産業を支える中小企業を中心に、各業種とそこで働く仲間の支援を強化するべき
- 提言3** 雇用問題への対応にとどまらず、産業内での中長期的な人材確保スキームを構築するべき
- 提言4** 日本の強みであるモノづくりをはじめとした、クルマにかかわる魅力をより広く伝承するべき
- 提言5** 各地域の状況や実態に応じた活動を推進するべき
- 提言6** 同じ職場で働く「仲間づくり」「仲間の拡大」を推進するべき
- 提言7** 国内外におけるカウンターパート機能を強化するべき
- 提言8** 自動車総連を将来にわたり信頼され必要とされる組織とするべき

ジェンダー共同・多様性推進計画

下図の「ジェンダー共同・多様性推進計画」のもと、特に男女共同参画を強く推進すべく下記の3本の柱をポジティブアクションと位置付けた活動を提案し、承認された。



森田組織局局長

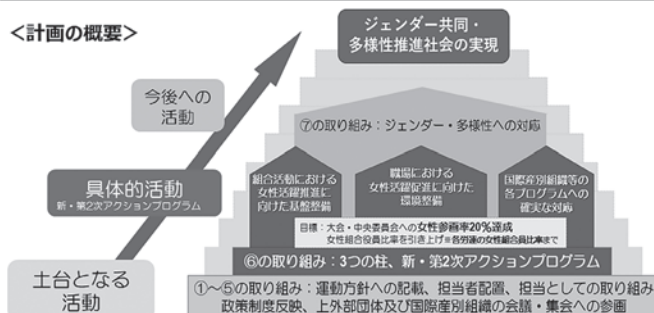
3本の柱

- 1 職場における女性活躍推進に向けた環境整備
- 2 組合活動における女性活躍推進に向けた基盤整備
- 3 国際産別組織等の各プログラムへの確実な対応



ジェンダー共同多様性推進計画について

<計画の概要>



第29期運動方針（案）を受けて、自動車総連加盟12労連の代議員が意見表明を行った。
その後、各労連の意見に対して本部の並木事務局長からコメントを発表した。

全トヨタ労連 川人 代議員

全トヨタ労連として、組合員の雇用・生活を守っていくためにも環境の変化に柔軟に対応し、自らの働き方を変え、人材育成が着実に行われる「強い職場づくり」を一丸となって進めていく。自動車総連には、日本の自動車産業の置かれている立場や進むべき方向性について、正しい知識を世の中へ発信していくと共に、政策実現に向けてこれまで以上に政治への働きかけを強めていくことを期待したい。

本部コメント：カーボンニュートラルへの対応において雇用と生活を守る強い意志を表明頂きました。今期も継続して産別ならではの発信を強化します。



日産労連 岩附 代議員

産業内の各業種に携わる組合員とその家族にとって、産業や会社の持続的成長・発展や自身の雇用・生活の安定・向上に対する不安があることも事実であり、私たち労働組合の役割・責任を果たしていくことがより重要になってきている。自動車総連本部へは、これまで同様に産業政策、業種政策をはじめとする政策立案と実現に向けた本部機能の発揮を要望する。

本部コメント：環境変化に対応する政策立案と実現に向けた本部機能の発揮と、「はまぐち誠」さんの2期目を懸けた戦いへ向けての総力を挙げた取り組みを心より期待します。



全本田労連 永吉 代議員

業務災害撲滅は全ての職場で通じる願いであり、自動車総連内における災害情報の共有に留まらず、未然防止に向けた取り組み事例の共有など、引き続き自動車総連の力強いサポートをお願いする。産業の大変革期には企業労使だけでは対応しきれないこともあり、自動車産業の代表を国政の場へ送り出す意義は、これまで以上に高くなっている。自動車総連においてもあらゆる面でのサポートをお願いしたい。

本部コメント：今期も最重要課題として災害撲滅に取り組めます。また、組織強化活動についても労連に寄り添ったサポートに努めます。



全国マツダ労連 原田 代議員

仮にエネルギー産業が脱炭素を達成できなくても、自動車産業が生き残るためには、自分達でできることはやらねばならない状況にあると考えている。欧州が国際的なルールを先導し、電気自動車一本に絞ろうとしているように見受けられるため、複数の電動化の選択肢をグローバルで揃えておく事が不可欠である。国が後手に回らず、イニシアチブを取るよう、政策面からの要請を強くお願いする。

本部コメント：環境変化に対応できる支援策を経営者とも連携し求めてまいります。また、脱炭素はグローバルでの経済戦争と認識し、産業政策を訴えてまいります。



三菱自動車ふそう労連 桑 代議員

自動車産業を取り巻く環境は100年に一度の大変革期にあるとともに、コロナ禍を契機に働き方や生活パターンも大きく変化するなか、企業ではこの変化に対応しつつ、先を見据えて活動を進めていると認識。加盟組合が労働組合としての役割を果たすうえでのサポートとして、加盟組合に寄り添いながら、環境変化に順応しつつ対応していくことがこれまで以上に重要になると考える。

本部コメント：次の10年に向け「あり方委員会最終答申」の具現化を着実に進め、ともに次なる歴史を築いていきましょう。



スズキ労連 嶋 代議員

日本がカーボンニュートラルを宣言したことを契機に、今まで以上に変化が加速しており、産業形態の変化も現実のものとなってきたと認識している。自動車総連本部には、運動の推進役として各運動方針に掲げた項目の深堀と、各局間の横串を通す体制の運営をお願いしたい。そのためにも、各労連のデジタル化の推進役として先導頂きたい。

本部コメント：既設の総合政策PTは中小支援を中心に改変します。デジタル対応も働き方改革と合わせPTを新設し、最賃PTでは引き続き特定最低賃金の引き上げに取り組みます。



組合員およびその家族の幸せの実現に向け、総連運動への積極的なご参画をお願い申し上げます。ともにがんばりましょう！



本部からコメントを述べる並木事務局長

SUBARU労連 春山 代議員



産業変革を何としても乗り越えるために、働きやすい職場づくりと企業基盤強化に向けて、SUBARU労連が一体となって取り組んでいく所存。自動車産業の発展には、産業政策の推進が極めて重要である。総連には政策実現に向けて力強い推進をお願いする。またコロナ禍においてこれまでの当たり前や過去を疑い、変わり続けるという視点においても、先陣を切って強力なリーダーシップをお願いしたい。

本部コメント：「はまぐち誠」を再度国政の場に送ることに総力を結集するとともに、「あり方委員会最終答申」を元に、今期より変革の10年にチャレンジします。

ダイハツ労連 辻 代議員



2050年カーボンニュートラル達成に向け、多くの部品企業は事業の存続にかかわる大きな課題に対し、生産性を向上させ、リソースシフトするなど、労使一体となって取り組みを進めている。労連加盟単組それぞれが、労使一体となって難局に立ち向かっていくことはもちろんであるが、自動車関係諸税に加え、インフラ整備やエネルギー政策補助金など政策面でのサポートを強力に訴えていただきたい。

本部コメント：軽自動車は日本の道路事情において不可欠な存在ですが、電動化による高額化が一番の課題と捉えています。地方の賃金上昇に取り組み、各社の努力を後押しします。

全いすゞ労連 鷹野 代議員



次世代を担う組合役員リーダーの育成を行い、職場活動の力を高めていくことで、持続可能な企業展開に向けグループ全体が健全に発展することを確かなものとし、組合員の雇用と生活を守り続けていくことが極めて重要と考える。各々が抱えている課題について各労連だけで取り組むのではなく、大型車各労連・メーカー等で議論を進めることができる推進をお願いしたい。

本部コメント：ドライバー・整備士不足や定着難を解消するために業種別課題として各部会での議論を進め、魅力的な職場づくりに向けて、総連の総合力を発揮して取り組みます。

日野労連 梅澤 代議員



環境負荷の高い商用車が主事業となる中、カーボンニュートラル・電動化・自動化といったまだ見えぬ社会の変化は、事業継続性含め日野労連にとっても非常に厳しい状況である。これから訪れる社会の変化を先取りした方針・運動の推進をお願いするとともに、経営団体に対し雇用の重要性と再教育を含めた人材育成への投資の理解活動の推進をお願いしたい。

本部コメント：部会を通じ本質的な課題をあぶり出し、経営団体への働きかけを強化します。また、12労連全体に目を配るよう常に留意します。

ヤマハ労連 高橋 代議員



ヤマハ労連はそれぞれの加盟組合の仲間の思いを結集させ、「なかまのあしたの働くを守るヤマハ労連」をキャッチコピーとして目指すところを明確に示し、労連全体で一体感ある取り組みを地道に推進していく。自動車総連としても12労連の仲間の思いを結集させ、取り組みを進めることで、自動車産業で働くすべての仲間の幸せにつなげて頂きたい。

本部コメント：総連としてもヤマハ労連のビジョンに強く共感します。皆様と丁寧なプロセスで論議し、79万7千組合員とその家族の幸せにつなげてまいります。

部品労連 岡田 代議員



部品企業として働き方の改善を通じた生産性向上や新製品・技術開発に挑み続けることが必要であり、労使が一体となって前向き且つ直向きに取り組む姿勢を見せることが重要と考えている。自動車総連に対しては、国際社会に対しカーボンニュートラルに向けた正しい理解を促進するとともに、部品企業の新規事業・技術開発に繋がる国の施策拡充について求めていくことを期待する。

本部コメント：正しい理解を内外に発信すると同時に、社内での公正な移行を第一義としリカレント教育や新技術開発支援を求めます。また、産業内に雇用をとどめる対応策を検討します。

第29期新任役員

第29期の役員選挙が行われ、投票の結果、新体制が承認された。その後、「第29期運動方針（案）」が新役員体制のもと提案され、全会一致で承認された。

三役

会長	金子 晃浩	(全トヨタ労連)	事務局長	並木 泰宗	(日産労連)
副会長	久重 道正	(全国マツダ労連)	副事務局長	森口 勲	(全本田労連)
	鶴岡 光行	(全トヨタ労連)		戸村 伸一郎	(全国マツダ労連)
	八角 慎一	(三菱自動車ふそう労連)		東矢 孝朗	(全トヨタ労連)
	寺門 勉	(日産労連)		安部 輝実	(三菱自動車ふそう労連)
	中川 義明	(全本田労連)			

中央執行委員

(非専従)			(専従)		
吉清 一博	(全トヨタ労連)	手島 洋	(全国マツダ労連)	古川 貴之	(全トヨタ労連)
西野 勝義	(全トヨタ労連)	永瀬 秀樹	(三菱自動車ふそう労連)	繁野 慶一	(全トヨタ労連)
小川 敬太	(全トヨタ労連)	松崎 兼二	(三菱自動車ふそう労連)	金持 史宣	(全トヨタ労連)
霧川 隆行	(全トヨタ労連)	武藤 憲司	(スズキ労連)	城生 雅浩	(日産労連)
大喜多 宏行	(日産労連)	川又 敏之	(SUBARU労連)	粕谷 強	(日産労連)
水清田 聡	(日産労連)	森 茂喜	(ダイハツ労連)	増田 全孝	(全本田労連)
川崎 俊輔	(日産労連)	鈴木 桂	(全いすゞ労連)	中島 基史	(全本田労連)
佐伯 啓朗	(日産労連)	会田 和博	(日野労連)	藤川 大輔	(三菱自動車ふそう労連)
前田 了二	(全本田労連)	久保 順裕	(ヤマハ労連)		
仲 宏訓	(全本田労連)	佐藤 哲也	(部品労連)		
				業種政策局 局長	
				労働政策局(働き方担当) 局長	
				組織局 局長	
				政治局 局長	
				政策局 局長	
				企画総務局 局長	
				国際局 局長	
				労働政策局(労働条件担当) 局長	

特別中央執行委員

山本 昌弘	(全トヨタ労連)	連合派遣
森田 義之	(全トヨタ労連)	連合派遣
富田 珠代	(日産労連)	連合派遣
平川 秀行	(三菱自動車ふそう労連)	金属労協派遣
春田 雄一	(スズキ労連)	連合派遣

常任執行委員

村上 瑞紀	(全トヨタ労連)	国際局 部長	江川 佳子	(スズキ労連)	業種政策局 部長
岡野 英由美	(全トヨタ労連)	業種政策局 部長	宮下 祐太	(SUBARU労連)	労働政策局 部長
渡部 修	(全トヨタ労連)	組織局 部長	小野 裕也	(ダイハツ労連)	企画総務局 部長
石川 雅教	(日産労連)	労働政策局 部長	薦 真人	(全いすゞ労連)	組織局 部長
岡崎 哲也	(日産労連)	業種政策局 部長	川見 名央	(日野労連)	労働政策局 部長
伊与田 紀之	(全本田労連)	業種政策局 部長	雪嶋 秀樹	(ヤマハ労連)	組織局 部長
池田 智香子	(全本田労連)	政策局 部長	田中 清文	(部品労連)	組織局 部長
古賀 敦男	(全国マツダ労連)	政治局 部長			

会計監査

乾 紘樹	(部品労連)
佐保 光男	(全いすゞ労連)

職員

北野 絹子	政策局	今野 美香	労働政策局
川下 明子	組織局/政策局/政治局	後藤 久子	企画総務局
齋藤 亜沙美	業種政策局	小泉 優子	企画総務局
前田 麻依子	国際局	時藤 紀子	企画総務局
水町 章会	国際局	金村 乃美	企画総務局

企画総務局主任推進役

磯 基之

組織拡大アドバイザー

江口 実

第28期 退任役員

今大会をもって26名の方が退任されました。これまでの自動車総連活動への尽力に感謝するとともに、今後の活躍をご祈念いたします。

三役

高倉 明	前会長/日産労連
桑原 敬行	前副会長/全本田労連
郡司 典好	前副会長/日産労連
藤田 清憲	前副事務局長/全トヨタ労連

中央執行委員 (非専従)

山口 健	前中央執行委員/全トヨタ労連
大川 伸二	前中央執行委員/全トヨタ労連
梶川 高則	前中央執行委員/日産労連
横山 謙一	前中央執行委員/全本田労連
山岸 稔	前中央執行委員/SUBARU労連
大澤 秀康	前中央執行委員/全いすゞ労連

中央執行委員 (専従)

熊野 明子	前中央執行委員/全トヨタ労連
鈴木 慎太郎	前中央執行委員/三菱自動車ふそう労連

特別中央執行委員

相原 康伸	前特別中央執行委員/全トヨタ労連
岡本 俊也	前特別中央執行委員/全トヨタ労連
江口 実	前特別中央執行委員/日産労連
難波 望	前特別中央執行委員/三菱自動車ふそう労連

常任執行委員

濱中 翔吾	前常任執行委員/全トヨタ労連
時古 龍也	前常任執行委員/日産労連
宮崎 健太	前常任執行委員/全本田労連
葛山 真由美	前常任執行委員/全本田労連
岡田 美和子	前常任執行委員/全国マツダ労連
鈴木 賢治	前常任執行委員/三菱自動車ふそう労連
南 考謙	前常任執行委員/ダイハツ労連
鍋倉 正彦	前常任執行委員/全いすゞ労連
宮澤 典子	前常任執行委員/日野労連

会計監査

渡部 豪	前会計監査/スズキ労連
------	-------------



退任役員のみなさん



魅力ある自動車産業のため、新役員一同困難に立ち向かう

自動車総連は、来年いよいよ結成50周年を迎えます。

これまで諸先輩方が培ってきていただいた良き伝統を受け継いで、とにかく自動車総連に集う仲間が“自動車産業で働いていて良かった”とこれからも、そしていつまでも思ってもらえるような、そんな魅力的な産業にしていきたい

と思っています。

今回信任された新しい役員とともに、私自身も常にその先頭に立ち、困難には果敢にチャレンジし、自動車総連運動を少しでも前に進めていきたいと思っておりますので、何卒よろしく願い申し上げます。ともに頑張りましょう。

国政報告



脱炭素社会に打ち勝つために一つになる必要がある

自動車総連組織内議員 衆議院議員
古本 伸一郎

地球規模のテーマ2050カーボンニュートラルに自動車産業は直面します。組合員お一人の声が単組で百、千となりメーカーで万に、自動車総連で数十万となります。自動車重量税の減税、社会保障と税の一体改革で消費税率を10%に引き上げ高等学校の授業料無償化や幼保の無償化も実現しました。コロナ対策で100兆円を超す赤字国債を発行しても国が耐えるのは消費税を皆様にご負担頂けるからです。こうした改革を断行できたのは数十万人の仲間

が支えて下さるからです。私も議員団の言葉は皆様のお陰で永田町や霞が関でとても力強く説得力があり感謝に堪えません。脱炭素社会という途方もないテーマに打ち勝つには皆様が一つになる必要があります。どれだけ危機感をシェアできるかです。内燃機関が悪ではないとの証明は産業の未来につながり地平を切り拓き自動車産業が更に発展するチャンスになると信じエールを送ります。

ふるもと伸一郎
衆議院議員



s-furumoto.net



自動車産業の大転換期を乗り越えるため力を合わせ頑張る

自動車総連組織内議員 参議院議員
磯崎 哲史

組合員の皆さまには常に暖かくお支えいただき、改めて御礼申し上げます。

政治のニュースは次期自民党総裁の話になっており、菅総理が「総裁選に出ない、コロナ対策に集中したい」と今になってようやく発言されました。緊急事態だからコロナに集中しませんかと、我々野党は1年半前から申し上げており、大変残念に受け止めるをえませんでした。

コロナを乗り越えていくため、ワクチン接種やPCR・抗

原検査の陰性を証明するためのデジタル証明書を発行する、こうしたアイデアを、半年前から検討すべきと訴えてきました。先を考えて行動をすることが求められており、その考え方を国民に説明していくことが政治の役割だと思います。

コロナ以外にもカーボンニュートラル、自動車産業がこの大転換期を乗り越えていくためにも、顧問議員3人が力を合わせて頑張っていきたいと思えます。引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

いそざき哲史
参議院議員



isozakitetsuji.com



雇用と産業を守るために全力で取り組む

自動車総連組織内議員 参議院議員
浜口 誠

自動車総連の皆さんには、全国各地で、ご支援いただき、感謝申し上げます。また、今年の定期大会では、「ふるもと衆議院議員」と「はまぐち誠」の必勝決議を行っていただき、ありがとうございました。

長引くコロナ禍に対しては、自宅での無料検査実施や自宅療養者への、かかりつけ医による外来での医療提供、ワクチン接種者等へのデジタル健康証明書による

行動制限の緩和など、感染収束と経済の活性化に向け、政策提言を行っていきます。また、カーボンニュートラルへの対応、自動車整備士不足、自動車関係諸税のユーザー負担軽減、適正な取引環境の整備、高速道路料金の定額制導入などの大胆な改革を進め、働く皆さんの雇用と産業を守るために、全力で取り組んでいきます。変わらぬご支援を、宜しくお願い致します。

はまぐち誠
参議院議員



hamaguchimakoto.com

自動車総連総決起集会を開催

第50回大会後、自動車総連総決起集会を開催しました。

冒頭、金子新会長、古本伸一郎衆議院議員、磯崎哲史参議院議員が挨拶し、「はまぐち 誠」の勝利をつかみ取るため、自動車総連一丸となって闘い抜くことを確認しました。全国47地協を代表して地協議長3名がリモート先から決意の一言、寺門推進本部長の挨拶に続き、「はまぐち 誠」候補予定者が、私たちの明るい未来を実現するための政治への熱い思い・力強い決意を語りました。最後に「はまぐち 誠」必勝に向け全員が一丸となるべく、リモート先と気持ちを合わせた「はまぐち 誠」三唱で全員の思いを一つに取り組むことを誓いあいました。



全員で「はまぐち誠」三唱



挨拶する金子会長



古本伸一郎衆議院議員



磯崎哲史参議院議員



福島地協 青谷議長



富山地協 石垣議長



長崎地協 濱田議長



寺門推進本部長

加盟労連の皆さんから
メッセージを
いただきました



「はまぐち 誠」必勝に向け、自動車総連一人ひとりの力を結集することを誓う

全員の心を一つに「はまぐち 誠」